

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200465		
法人名	有限会社 バリアフリーLife		
事業所名	グループホーム ひだまりとうげ庵		
所在地	唐津市山田4025番地1 (電 話) 0955-78-3197		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 15 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1ヶ月当たり		29,900 円

(4) 利用者の概要(平成20年9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)なごみ会 酒井医院	はるみ歯科
---------	--------------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

少し高台の、のどかな山あいの里に、デイサービス・宅老所と併設している。建物は中庭があり、ぐるっと一周できる作りになっている。中庭から自然の光と風を取り入れることができ、心地よい空間になっている。居間には音楽を流されたり、入居者も歌が好きな方が多く楽しく過ごされている。また、学習療法を実施され認知症の悪化防止にも力を入れられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価後の指摘やアドバイスは、グループホーム内にて検討され改善に向けて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	より多くの視点で物事を判断して、より最適なサービスの提供を心がけておられ、自己評価は現在のサービスを見直す機会として活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や区長、家族会の代表の参加があり、活動報告・今後の行事について話し合いが行われている。しかし、運営推進会議のメンバーが固定化されていたり、議題も常態化している所もあるので、そのことについても運営推進会議にかけて話し合いをすることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケートを行い、代表者に直接要望や苦情を伝えられる。代表者が家族に回答し、全職員ですぐに対応し改善されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	児童館からの慰問を受け入れたり、地域の運動会に参加されたり、職員は、地域の老人会へ介護保険の説明や地域の除草作業等に参加されたりして、地域との交流をされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寄り添い」という理念を掲げ、入居者・家族・入居者の環境・入居者の背景・地域それぞれに「寄り添い」という思いを繋ぎ合い、介護に対する思いの象徴として理念を作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時に理念教育、毎月の会議にて入居者と寄り添うことができたか、各職員で事例発表を行い、ディスカッションやグループワークを行うことで、管理者と職員が同じ尺度・価値観での理念の実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	児童館からの慰問の受け入れや、地域の運動会に参加されたり、職員は地域の老人会へ介護保険の説明や地域の除草作業などに参加されたりして地域との交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より多くの視点で物事を判断して、より最適なサービスの提供を心がけておられ、自己評価は現在のサービスを見直す機会として活用されている。外部評価後の指摘やアドバイスは、事業所内にて検討され改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や区長、家族会の代表の参加があり、毎月の活動報告・今後の行事等について話し合いが行われている。	○	運営推進会議のメンバーが固定化されていたり、議題も常態化している所もあるので、そのことについても運営推進会議にかけて話し合いをすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修や見学を受け入れられたり、相談や報告がなされ、市とともにサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便り等で、職員の異動について報告されたり、面会時や電話にて、個別に暮らしぶりや健康状態、金銭立替え等の連絡をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行い、代表者に直接要望や苦情を伝えられている。代表者が家族に回答し全職員ですぐに対応し改善されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員教育の一環として必ず他の事業所への異動をされているが、その際は事前に、家族へ説明し、入居者に影響が出ないように1事業所から原則1名とされている。異動交代の職員がいる場合は1カ月の移行期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に、オリエンテーション、理念、マナー、介護技術、コミュニケーション等を教育され、“他の施設が欲しい職員を”目標に1カ月間の新人研修をされている。また、他事業所の研修に参加させたり、事業所内の介護・看護会議では技術研修・事例検討をされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関のグループホームの勉強会に参加されたり、研修を受け入れられたり、同業者との情報交換や職員同士のコミュニケーション・知識の向上に励まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の情報収集に努められ、介護支援専門員、家族、その他の関係者と相談・協議の上、その人にとって一番最適な方法をとるように努められている。入居前は併設の宅老所の利用者が多く、頻繁に職員が会いに行き、馴染んで頂けるように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず、共に生活していくことを徹底されている。もちつきなどの行事では、入居者より昔の習慣などを教えて頂くことがあり、共に支え合う関係作りに留意されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や家族の面会時に、本人・家族・職員で話し合いを行ったりして、思いや意向の把握に努めている。また、アンケート等を行い、気軽に希望を言われるように工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の方に入居者が、どうあって欲しいか、どういて欲しいかを問いかけ、意見や要望を聞き取り、会議等にてよく話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランのサービス実施項目を毎日チェック表でチェックされ、毎月評価し、3カ月ごとに介護計画の見直しをされている。また、個々の状況の変化に応じ、随時カンファレンスで話し合い、介護計画が立て直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	余裕のある人員配置に努め、買い物、散歩、美容室など、本人の要望に応じて柔軟な援助が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があるが、基本的には、入居者・家族が望まれる所に往診・受診している。協力医療機関とは、24時間体制で契約している。本人・家族が望まれるかかりつけ医では、夜間の急変時にも対応されるか確認されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、入居者・家族と話し合い、かかりつけ医との協力体制をとり、方針を共有している。慎重に何度も話し合い、入居者・家族にとってよりよい方法を検討されている。	○	方針を決めても入居者・家族の思いは、常に揺れ動くので、入居者・家族の安心と納得を得られるように、意志確認書を作成されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	まず入居者を知ること努められ、一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、プライドを損ねないように、入居者の世界を大切にしている。個人情報保護についても、記録の保管に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れを職員のやり易さに合わせることでわなく、入居者一人ひとりの生活パターンを大切にされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストメニューを週1回取り入れられ、献立は母体施設の栄養士と相談し調理されている。食事や準備・片付け等も入居者と職員と一緒に楽しみながらされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、お湯の温度や入浴時間も一人ひとりの希望に合わせて入浴ができるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホームの裏に畑を作られたり、洗濯物干し、おしぼり巻きなどの役割や趣味の写真を続けられ、毎日の個々の楽しみ役割が持てるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い日には、日常的に散歩や買い物など積極的に外出支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。外出される時は職員が付き添い、自由に外出して頂けるような体制がとられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月・11月に消防訓練を実施し、消防署・地元の消防団と連携をとっている。また、マニュアルを整備し、混乱がないように訓練されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取・食事摂取量の状態を一人ひとり記録し、情報を共有して個々のケアに繋がられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的でカーテン・家具などを暖色系でまとめられたり、テーブルに花を飾られたり、施設内に多くの植物が配置され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や人形などの生活用品を自由に持ち込むことができ、その人らしい居室作りをされている。		